

# たしかめシート 五一①

名前 ( )

【一】次の言い方を ( ) の指示に従つて敬語を使った言い方に直しましょう。

① これは、ぼくの本だ。

← (ていねい語を使った言い方)

② 校長先生が、来ました。

← (尊敬語を使った言い方)

③ 明日、行きます。

← (けんじょう語を使った言い方)

【二】次の言葉は、漢語と和語で意味も読み方も異なります。それぞれの読み方を書き、意味を選んで線で結びましょう。

(漢語) 色紙 (しきし) 色のついた紙。四角の色つきの紙 (折り紙)。

(例) 色紙  
(和語) いろがみ 和歌や俳句などを書く、四角い厚紙。

(漢語)

① 風車 (和語)  
羽根車に風を受けて回転させ、動力を得るもので、発電などにも使われる。

(漢語)

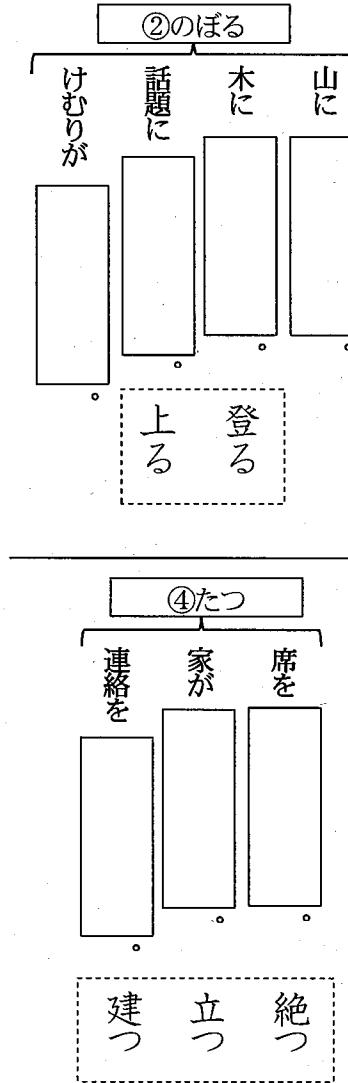
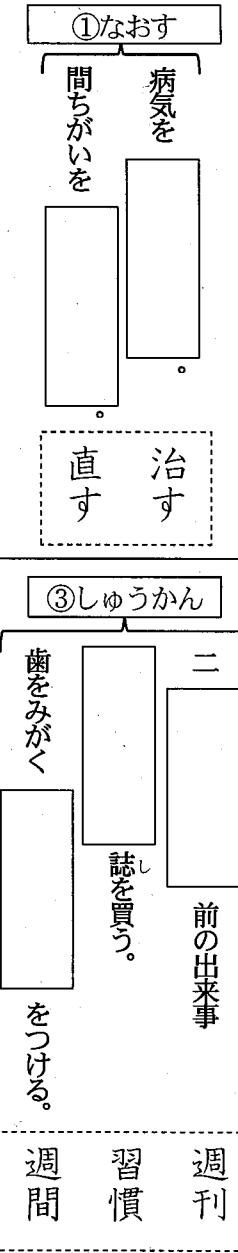
② 生物 (和語)  
・ 植物などの生命をもつもの。  
・ 加熱などをしていない食べ物。

(和語)

# たしかめシート 五一②

名前 ( )

三 次の□に合う漢字を□から選んで書きましょう。(同じ漢字を書く場合もあります。)



四 二つ以上の言葉を結び付けて複合語を作りましょう。( )には、読みがなも書きましょう。

(例) 立つ + 上がる → 立ち上がる

①飛ぶ + 去る → ( )

③山 + 小屋 → ( )

②書く + 表す → ( )

④花 + 煙 → ( )

五 次の一の漢字に読みがなを書きましょう。「じ」と「ぢ」、「す」と「づ」に氣を付けて書きましょう。

② 三 日 月  
④ 湖  
⑥ 続 く

① 地 面  
③ 鼻 血  
⑤ 自 ら

# たしかめシート 五 ③

名前 ( )

六

次の文には、主語と述語の組み合わせが一組あります。例のように、主語に――、述語に――を引いて矢印「→」でつなぎましょう。

(例) 少しごらいの 雨が 降つても、私たちは 遠足に 行くだろう。

①わたしは 小学校へ 行き、姉は 中学校へ 行く。

②わたしは 犬を かつていて、その 犬は えさを よく 食べる。

③はじめの チャイムが 鳴つたので、授業が 始まった。

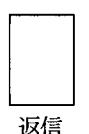
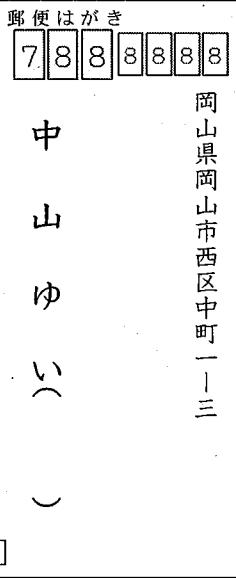
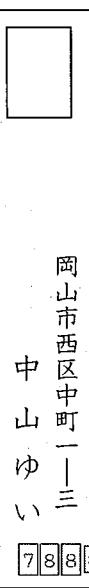
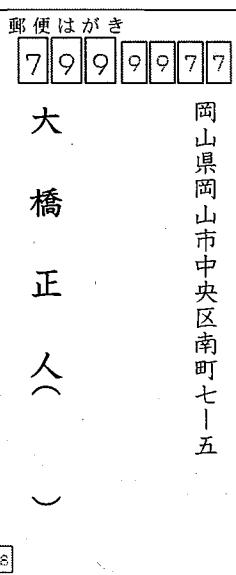
④ぼくは 弟が 店から 出るのを見つけた。

七 中山ゆいさんが、はがきを書きます。①～③のよつなどきに、はがきのあて先をどうのよつた書きばよいでしょう。

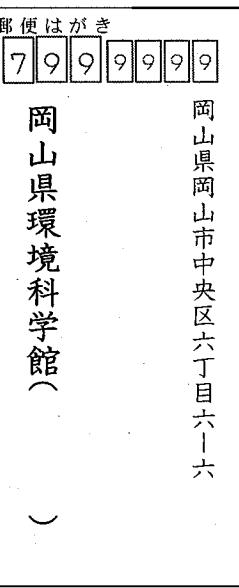


から選んで ( ) に書きましょう。

①個人に出す場合



返信



御中行様

# たしかめシート 五一④

名前（ ）

八 花山小学校の山谷みきさんは、米作りの学習でお世話になつた小林和夫さんにお礼の手紙を書くことにしました。次の手紙の□に書くことを□から選んで書きましょう。

この一年間、米作りのことを教えてくださいて、ありがとうございました。  
小林さんから、米作りのときにどんな仕事をするのかをくわしく教えていた  
だいて、米作りのことが本当によくわかりました。米作りの大変さや、小  
林さんがおいしいお米をたくさんの人々に食べてもらいたいという気持ちで作  
られていることを知り、わたしは、ご飯を食べながら、このお米も大切に育て  
られたんだなあと思うようになりました。これからも、おいしいお米を残さ  
ずにつくさん食べたいです。

少しずつすずしくなつてきました。  
した。小林さんは、いかがお過  
ごしですか。

お体に気を付けて、また来年も  
おいしいお米をたくさん作ってくだ  
さい。

敬具

拝啓

山谷みき

小林和夫様

十月十五日

花山小学校

# たしかめシート 五—⑤

名前 ( )

九 次の漢字の——の読み方を□に書きましょう。

①額にあせをかく。

②この木は幹が太い。

③船が寄港する。

④畑を耕作する。

⑤金銭の使い方を考える。

⑥別室へ退く。

⑦仲間を率いる。

⑧こん虫を採集する。

⑨夫妻を招く。

⑩勢よく走る。

⑪領土に色をぬる。

⑫医者を志す。

⑬ふたたび話し合う。

⑭さかあがりをする。

⑮おうふくする。

⑯かちある話

⑰きんどうに分け

⑱る。

⑲おうふくする。

⑳かわしい山道

㉑けいけんしたこと

㉒ひんしつがよい。

㉓病気のよぼう

㉔会をもうける。

㉕氷がはる。

十 次の——の言葉を漢字で□に書きましょう。送りがなが必要なものもあります。

間ちがえた問題を練習しましょう。